

(関西・中部地区) 第45回歌舞伎観劇 7月10日 大阪松竹座

松本幸四郎改め 二代目 松本 白鸚 襲名披露
市川染五郎改め 十代目 松本幸四郎

今回は、松本幸四郎改め二代目松本白鸚、市川染五郎改め十代目松本幸四郎の襲名披露公演を14名で鑑賞しました。

昼の部の番組は『廓三番叟』『車引』『河内山』『勸進帳』の豪華版でまず『廓三番叟』華やかに高麗屋の襲名披露を寿ぐ舞で長唄のせりふにも、「とうとうたり」と途切れのない水の流れや、「千早振」、「千年の鶴」等々お目出度い唄をバックに艶やかな舞が披露されました。



2番目の『車引』は「菅原伝授手習鏡」の三段目、中村又五郎の松王丸、中村鴈治郎の梅王丸に中村扇雀の桜丸の三兄弟、それぞれの役割や性格の違いを表す限取、またさまざまな見得を楽しめました。



『河内山』は二代目白鸚の円熟した演技力が遺憾なく発揮された今回の目玉狂言でした。庶民の楽しみだった歌舞伎や文楽は土農工商の身分制度を皮肉りながら下層階級である自分たちの慰みにもしていたとか。河内山宗俊、松江邸玄関先で子悪党の正体を見破られても、歌六の大名出雲守に小気味のよい啖呵を切って逆にやり込め、帰り際に振り返ってのひと言、「馬鹿め」と一喝して悠然と引き上げていく姿は暑さを吹き飛ばし、うさも晴らしてすっきりと楽しめました。悪党の本性を隠し

ながら使層としての品格も要求される難しい役、「よっ！高麗屋！二代目！！」と声をかけたくなる素晴らしい演技でした。



最後は歌舞伎十八番の中の『勸進帳』。弁慶は十代目を襲名した松本幸四郎、対する富樫はベテラン片岡仁左衛門。幸太郎の義経の三人が見せる数々の見得、幕の豪快な飛び六方を楽しみました。



7月の日本経済新聞の「私の履歴書」では二代目白鸚さんの弟、中村吉右衛門さんが執筆されていました。(初代中村吉右衛門の養子となる)播磨屋を継ぐことになった二代目吉右衛門さんが初代吉右衛門との格の違いに、このままでは吉右衛門の名跡を汚してしまうのではないかと、いらいらを抑えきれず精神安定剤をジンで飲み、夜中に吐血、救急車で運ばれるとか、自分に限界を感じてガス管をくわえたこともあったと回想されています。歌舞伎の家の名跡を継いで行くことが如何に大変なことかと思った次第です。昨年は中村芝翫の成駒屋一門親子四人が同時襲名披露公演をやられました。各一門が切磋琢磨をされて、歌舞伎を大いに盛り上げてほしいですね。(高島 隆三郎・記)